

CONTENTS

- 新年のごあいさつ 1
- 第46回 全国土地改良大会千葉大会 6
- 農業農村整備の集い 7
- 農業農村整備事業の推進に関する県知事他への要望 9
- 国へ予算や制度拡充を要望 10
- 令和7年度 農林水産予算概算決定の概要 11
- 令和6年度 第3回監事会 12
- 令和6年度 第2回理事会 12
- 令和6年度 臨時総会 13
- 第68回 通常総会の開催について（予定） 13
- 令和6年度 土地改良施設の診断・管理指導結果の概要 14
- 令和6年度 土地改良相談の概要 16
- 「さいたま水土里ネット女性の会」現地研修会 17
- 2024ため池フォーラム inあきた 18
- 「2024彩の国食と農林業ドリームフェスタ」開催結果 19
- 第12回「彩の国 農業・農村景観フォトコンテスト」 20
- 受賞作品 21
- 農業基盤整備資金の金利改定について 24
- 連合会日誌 24

埼玉の土地改良

田水張る（久喜市菖蒲町）



新年のごあいさつ

水土里ネットさいたま
埼玉県土地改良事業団体連合会
会長 三ツ林 裕 己



明けましておめでとうございます。会員の皆様には清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より、本会の運営並びに農業農村整備の推進に格別のご支援、ご協力を賜り心より感謝と敬意を表します。

昨年を振り返りますと、元日の夕刻に能登半島地方で最大震度7の地震が発生し、甚大な被害が発生しました。地震からの復旧作業に取り組まれる中、9月の記録的な大雨でさらに被害に見舞われました。1年を通して災禍に苦しめられ、悲痛な思いをされたことと存じます。被災された皆様にお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興を願うばかりです。

当会では発災直後から職員を派遣し現地調査や復旧事業の支援を行いました。また、会員の皆様からお預かりした義援金は全国水土里ネットを通じて被災地に届けさせていただきました。

農業関係の出来事としては、5月に「食料・農業・農村基本法」が実に25年ぶりに改正され、「食料安全保障の確保」や「環境と調和のとれた食料システムの確立」、「農業の持続的な発展」など今後の農政の方向性が示されました。

昨今の国際情勢をふまえると、自国の食料は極力自国で賄うことや食料安全保障を確立する重要性を改めて多くの方々が実感しているのではないのでしょうか。食を支える農業は、この国に無くてはならない基幹産業であり、農地や農業水利施設などの生産基盤をしっかりと保全し、持続可能な農業を実現するため、農業農村整備に対する国民の理解醸成に取り組んでいく必要があります。

さて、新基本法の初年度となる来年度の農業農村整備関係予算ですが、昨年末に閣議決定された政府案では、令和7年度当初予算として4,464億円が計上されており、令和6年度補正予算2,037億円とを合わせ、6,500億円が確保される見込みです。

農業農村を取り巻く情勢は、農業者の減少・高齢化に加え、自然災害の頻発化・激甚化、さらには生産資材価格の高止まりなど厳しい状況が続いております。農業農村の様々な課題にしっかり対応するためには、必要な施策を実行するための予算の確保が重要です。

子育て支援など社会保障関係や防衛費が増大し、政府の財政、特に公共事業予算が非常に緊迫している状況の中ですが、現場のニーズにしっかり応えられる予算規模が確保されていると思います。

農業は国の基です。「農業農村整備事業」や「水土里ネット」が持つ使命を再確認し、未来を担う世代に誇れる地域資源を残していくため、私たち一人一人が責任をもって行動していくことが求められています。

令和7年の新春を迎え、本会役員一丸となって、会員の皆様と力を合わせ、実りある一年を築いてまいりたいと考えておりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本県農業農村の発展と、会員並びに関係皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のごあいさつ

「持続可能で活力ある埼玉を次世代につなぐ」

埼玉県知事 大野元裕



明けましておめでとうございます。

埼玉県土地改良事業団体連合会の皆様におかれましては、本県の農業農村整備事業の推進に御尽力いただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

昨年は、渋沢栄一翁が描かれた新一万円札発行を契機と捉え、渋沢翁が埼玉出身であることを大いにPRしました。

また、パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会などの大会では、県ゆかりの選手が大活躍しました。

県産農産物においても、いちごの「あまりん」、梨の「彩玉」などの受賞が相次ぐなど、本県に強力な追い風が吹いた年でした。

さて、「人口減少・超少子高齢社会の到来」と「激甚化・頻発化する自然災害など、危機への対応」という時代の転換点における2つの歴史的課題に敢然と立ち向かい、中長期的な観点に立った施策を確実に実行していくことが我々の使命です。

人口減少・超少子高齢社会への対応として、「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」による持続可能なまちづくり、社会全体のDX推進による生産性向上、サーキュラーエコノミーの推進、円滑な価格転嫁に向けた支援などを更に推し進めていきます。

また、子どもや子育て当事者の意見を聴き、施策に反映させ、安心して子どもを生み育てられる環境の整備を進めるほか、あらゆる人に居場所があり、活躍でき、安心して暮らせる社会の実現を目指していきます。

さらに、激甚化・頻発化する災害などの危機には、能登半島地震などの検証を踏まえ、入念な備えを進めるとともに、「埼玉版FEMA」の推進により危機管理・災害対応力を強化してまいります。

5か年計画で本県が目指す将来像の実現に向け各取組を更に深化させるとともに、DXの第2段階としてデジタルを前提に従来の仕事のやり方を見直すTXを推進していきます。

今年5月には、本県で全国植樹祭が開催されます。森林・みどりを利用しながら守り育てるとともに、森林資源の循環利用を図る「活樹」に取り組む契機としていきます。

夏には、埼玉初のイノベーション創出拠点「渋沢MIX」を開設します。新たなイノベーションが共創される場となるよう進めてまいります。

農業農村整備の分野においては、激甚化・頻発化する自然災害に対応するべく、防災・減災の観点から防災重点農業用ため池の防災対策や、農業水利施設の老朽化対策等を計画的に実施してまいりました。

引き続き、農業農村整備に全力で取り組んでまいります。農地や農業水利施設の管理を担い、県土の発展を支えてきた貴連合会の皆様のお力添えが不可欠ですので、一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年の干支「巳（み）」のように埼玉県にとって実り多き年となるよう、皆様と共に「ワンチーム埼玉」で県政に取り組み、活力ある埼玉を次世代につないでまいります。

年頭あいさつ

全国水土里ネット
全国土地改良事業団体連合会
会長 二階俊博



令和7年の年頭に当たり、全国の土地改良事業に携わっておられる皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、年始めの1月1日に石川県能登地方を震源とした震度7の大地震が発生し、能登半島を中心に甚大な被害が発生するとともに、9月には記録的な豪雨により奥能登ではさらに被害が増し、能登半島は未だ復旧、復興の途にあります。

また、全国各地で記録的な豪雨が相次ぎ、大きな被害が発生しました。被害を受けられた地域の日も早い復旧・復興を祈念するとともに、我々土地改良団体も団結して被災地の支援に取り組んでいかなければなりません。

さて、令和7年の干支は乙巳（きのとみ）であります。努力を重ね、物事を安定させていくという意味合いを持ち、これまでの努力や準備が実を結び始める時期とされています。これまで我々土地改良関係者が積み重ねてきた様々な努力が実を結ぶ年となることを強く祈念するところです。

昨年、食料・農業・農村基本法が改正され、「食料安全保障の強化」、「環境と調和のとれた食料システムの確立」が新たな柱に位置付けられました。令和7年度農林水産関係予算は、農業の持続的な発展、農村の振興等を図るため、農業の構造転換の実現に向けた施策を初動の5年間で集中的に実行するとともに、農林水産業の持続可能な成長を推進するための予算となっており、農業農村整備事業関係予算においては4464億円が確保され、令和6年度補正予算を加えると6500億円となります。皆様の熱意ある要請活動と農林水産省をはじめとする関係各位の御尽力に厚く御礼を申し上げます。

第5次男女共同参画基本計画及び土地改良長期計画において、令和7年度までに女性理事が登用されていない土地改良区及び土地改良区連合をゼロに、併せて女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標に設定されており、いよいよ最終年度を迎えました。皆様の御理解をいただき着実に女性理事の登用が進められてきたところですが、目標達成に向け、更なる取組をお願いしたいと思います。将来の土地改良団体の体制強化と発展には女性の力は必要不可欠です。女性が活躍できる環境づくりに関係各位の一層の御理解と御協力をお願いします。

そして、本年は我々の職域の代表である宮崎雅夫さんの勝負の年ともなります。もう一人の代表である進藤金日子さんと共に全国津々浦々の現場を回り、皆さんの声を聞き、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。二人体制の重要性を十分に御理解いただき、皆さんの声を国会に届けるためにお二人の活動の支援をお願いします。

「農業農村の振興」を果たすためには、限りなく闘い続けていかなければなりません。「闘う土地改良」を旗印として組織一体となって更なる闘いを続けていこうではありませんか。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様の地域の農業・農村が活力を得て、一層発展するよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。

新年にあたって

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 進 藤 金日子



埼玉県土地改良事業団体連合会の皆様には、平素よりお世話になっています。

昨年は元日に能登半島地震、8月に宮崎県沖地震が発生し、南海トラフ地震の発生可能性が高まり、巨大地震注意臨時情報が発表されました。改めて地震大国日本を感じ、国土の防災・減災、国土強靱化を進めていく必要性を痛感した1年となりました。

昨年6月には食料・農業・農村基本法が改正され、初動の5年間で「農業構造転換集中対策期間」として農業政策の再構築を図ることとしており、本年は初動一年目の重要な年となります。

また、私は一昨年の12月14日から約11ヶ月間、財務大臣政務官を務め、国の財政について日常的に接する機会を得ました。国家財政の観点からも我が国の将来像を考えていく必要があります。

さて、現在の防災・減災、国土強靱化5か年加速化対策は、計画期間が令和3～7年度、事業規模は概ね15兆円程度となっています。現在、次期対策の国土強靱化実施中期計画の検討が進められていますが、この計画に土地改良について「農業水利施設等の老朽化、豪雨・地震対策」や「防災重点農業用ため池の防災・減災対策」等を位置付け、事業規模も現対策以上の規模を確保する必要があります。

次に農政については、本年3月までに食料・農業・農村基本計画が策定されます。政府の方針は、「輸入依存度の高い麦・大豆の増産、水田政策を見直す取組、輸出の抜本拡大を図る取組等について効果的な政策を基本計画に盛り込む」（令和6年8月27日、「食料安定供給・農林水産業基盤強化本部」）ことであり、今後、具体的な検討が進められます。

食料安全保障の確保のためには、食料自給力の強化が不可欠で、①土地改良対策、②担い手対策、③試験・研究、普及・生産対策をパッケージで実施することが必要です。このうち、土地改良については、令和6年度補正予算の2,037億円と令和7年度当初予算政府原案の4,464億円を加え、6,500億円の予算を確保しました。この予算を活用して対策を進めていく必要があります。

最後に我が国財政を見てみます。令和6年度末の公債残高は、特例公債（いわゆる赤字国債）残高が803兆円、建設公債残高が298兆円で1,105兆円となる見込みです。この15年間に公債残高はほぼ倍増し、赤字国債は2.26倍、建設公債は1.25倍となっています。建設国債は社会資本ストックを後世に残すことから、後世に負担を求めることが可能ですが、赤字国債の負担を求めることは困難です。デフレから完全脱却して経済成長を促し、将来にわたり税収を増やして財政の健全化を図り、後世の負担を軽減し、政策選択の自由度を確保することが重要です。

農政や国土強靱化、我が国経済の転換の節目である令和7年のはじめにあたり、決意新たに農業農村の振興、国家の発展に向けまい進していきたいと考えています。同志の宮崎雅夫議員共々皆様からのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げるとともに、埼玉県土地改良事業団体連合会の一層のご発展とご繁栄をお祈りいたします。

新年にあたって

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 宮崎雅夫



埼玉県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、土地改良事業の円滑な推進や施設の適切な管理にご尽力いただいておりますことに心から敬意を表しますとともに、私、宮崎雅夫の国政活動に多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

また、昨年も能登半島地震をはじめ、各地で甚大な災害が発生しました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く日常生活を取り戻して頂けるよう、復旧・復興に最大限の努力をしてまいります。

さて、昨年は、社会情勢の不安定化等に起因し、食料や資材価格等が高騰するとともに、全国的に食料供給に対する懸念も広がった1年でした。食料は、生命維持に不可欠なものであり、どのような事態が生じたとしても安定的に確保することが国の責務であります。このような状況に対応するため、四半世紀ぶりに「食料・農業・農村基本法」を大幅に改正しました。

私も皆様方から多くのご支援をいただきながら、現場でお聞きした皆様のお声やご要望等に対し、それぞれの状況に即して、国政の場から全力で対応してまいりました。土地改良関係の令和6年度補正予算では、昨年度の補正予算から260億円増の2,037億円を確保できました。加えて、12月に閣議決定した令和7年度当初予算案では、前年度を上回る4,464億円が計上され、補正予算と合わせて総額6,500億円を確保することができました。皆様方のご尽力に感謝申し上げますとともに、次期通常国会において、早期成立に向け努力してまいります。

また、改正基本法に沿って、土地改良法を始めとする関係法令等の新設・改正を行うこととしています。特に、本年は改正基本法を実効あるものとしていく「農業構造転換集中対策期間」5ヶ年がスタートする年であり、より良い施策展開のためには、現地課題等を十分に把握し、それに対応したものとなるよう全力で対応してまいります。

本年は私にとって節目の年となりますが、引き続き「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を基本理念として、皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保と現場の実情に即した制度の充実に向け、誠心誠意努力してまいり決意ですので、引き続きのご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、埼玉県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様方の益々のご発展とご健勝を心より祈念申し上げます。

第46回 全国土地改良大会千葉大会

第46回全国土地改良大会が去る10月22日（火）、千葉県千葉市の幕張メッセ イベントホールにおいて、「ふさの国から飛び立て 水土里の恵み 力強く 未来に繋ごう水土里の礎」をテーマに、全国から農業農村整備にかかわる関係者約4,000名（うち県内参加者251名）が参集し、新たな農業の展開方向に即して、改めて農業農村整備の使命を再認識し、関係者の総力をあげて我が国の農業・農村をさらに発展させることを目的として開催された。

式典では、開催県である千葉県土地改良事業団体連合会 森英介会長の開会挨拶に続き、主催者の全国土地改良事業団体連合会 二階俊博会長の挨拶があった。さらに、千葉県の熊谷俊人知事、千葉市の橋本直明副市長から歓迎の挨拶があった。続いて、来賓祝辞として、青山健治農林水産省農村振興局長は小里泰弘農林水産大臣の祝辞を代読、桜田義孝前衆議院議員、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の進藤金日子参議院議員と宮崎雅夫参議院議員からそれぞれお祝いを述べられた。

次に、土地改良事業功績者表彰として、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会会長表彰41名に表彰状と記念品が授与され、本県からは、大里用土地改良区の夏目亮一理事長が全国土地改良事業団体連合会会長表彰を受賞された。

基調講演では、「乗り越え、受け継ぐ土地改良」と題して、青山次長より土地改良をめぐる情勢について説明があった。

その後、優良事例地区として、篠本新井土地改良区の伊橋秀和理事長から「集落営農型基盤整備の取り組みについて」紹介された。

最後に、小糸川沿岸土地改良区の坪田咲彩主事と東葛北部土地改良区の小沼優輝主事補による大会宣言が朗読され、次期開催県である佐賀県へと大会旗の引き継がれ閉会となった。

翌日は、千葉県にある、国営両総用水事業 両総用水第2揚水機場の事業視察を行った。



会場の様子



埼玉県内参加者



夏目亮一

大里用土地改良区理事長
池上土地改良区理事長
埼玉県土地改良事業団体連合会理事

農業農村整備の集い — 農を守り、地方を創る予算の確保に向けて —

去る11月5日シェーンバッハサボー（千代田区永田町）に於いて、令和6年度補正予算及び7年度当初予算の確保に向けた「農業農村整備の集い」が、国会議員（約80名）を含むおよそ1,200名の土地改良関係者が全国から参加して開催された。

開会にあたり、全国水土里ネット二階俊博会長から「令和6年能登半島地震や全国各地の豪雨被害等により被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げます。現在、来年度予算に向けた編成が進められているが、農家の方々の期待を以って、安心していただける環境づくりに応えられる予算の確保に一致団結して取り組む。また、来年は土地改良にとって大きな勝負の年となる。『闘う土地改良』の目標達成に向けて粉骨砕身をお願いしたい。」との挨拶があった。

また、来賓の小里泰弘農林水産大臣、城内実経済安全保障担当大臣、森山裕自民党幹事長、西田実仁公明党幹事長からの祝辞に続き、宮崎雅夫、進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問より力強い挨拶があった。

続いて、全国土地改良大会の令和7年度開催県である水土里ネット佐賀の田島健一会長が要請書を朗読し、満場の拍手をもって全会一致で採択された。その後、能登半島地震及び豪雨災害により多大な被害を受けた復旧状況について、水土里ネット石川の前寺清一副会長より紹介があった。

最後に、全国水土里ネット女性の会の西彩会長らによる力強い「ガンバロウ三唱」の発声と盛大な拍手をもって、盛会裡に閉会となった。

閉会后、本県からの参加者らで、本県選出の国会議員へ要請活動を行った。



盛大な会場の様子



全土連二階会長の挨拶

要 請 文

- 一 土地改良事業の計画的な推進のため、必要な予算を安定的に確保すること。
- 二 食料・農業・農村基本法の改正を踏まえ、土地改良法や関連する支援制度の充実を図ること。
 - (一) 保全管理の明確化など土地改良法の目的・原則の拡充
 - (二) 施設の老朽化や突発事故の増加等が進む中で、国等の発意で行う事業の拡充などを含め、施設の更新整備を円滑に行うための環境整備
 - (三) 土地改良区の運営基盤の強化や、地域における農業水利施設の適切な保全管理に向け、土地改良区と市町村をはじめとした関係機関の連携等を促進する仕組みの創設
 - (四) 防災・減災対策や被災後の改良復旧を促進するための拡充
 - (五) スマート農業や需要に応じた生産に対応した基盤整備を推進する観点から情報通信基盤整備の位置付けの明確化やきめ細やかな営農ニーズに対応できる拡充
 - (六) 多面的機能支払や中山間地域等直接支払について、土地改良区等の多様な組織の参画を促進しつつ取組を強化するための拡充 等
- 三 農業の競争力強化のため、農地の集積・集約化、米から高収益作物への転換、スマート農業の導入やほ場周りの管理の省力化を促す農地整備を推進すること。
- 四 大規模災害からの復旧・復興や再度災害防止の取組を早急に進めること。あわせて、農村地域の国土強靱化のため、基幹から末端に至るまでの農業水利施設の更新・長寿命化や、豪雨・地震対策等を推進すること。
- 五 自然的、社会的、経済的な情勢変化を踏まえ、高い公共性・公益性を有する土地改良施設の維持管理に対する支援を充実させること。
- 六 ICT、AI 等を活用して、土地改良施設の管理の省力化・高度化等を図る取組を推進するとともに、中小規模の土地改良区を対象とした合併など、土地改良区の運営基盤強化に対する支援を推進すること。
- 七 上記事項の推進に当たり、水土里ネットが有する技術、経験などを十分発揮できるよう配慮すること。

農業農村整備事業の推進に関する県知事他への要望

本会の三ツ林会長、原田副会長、坪井副会長、稲場常務理事は、去る11月28日、埼玉県の大野知事、堀光副知事、山崎副知事、横塚農林部長、西澤農村整備課長と面会した。

意欲ある担い手農家の育成を促し、農業を成長産業化するとともに、魅力ある快適で美しい農村環境を維持することが重要な課題。そのために、農業農村を形成する農用地・農業用施設を将来にわたって健全化し、頻発する異常気象や今後想定される大規模地震にも備えた強靱化が必要であると、令和7年度予算編成にあたり、下記3項目を重点要望項目として要望した。また、河川等で発生し駆除が難しい外来雑草のナガエツルノゲイトウの対策についても要望した。

◆重点要望事項

- 1 農業水利施設の計画的な補修・更新
- 2 農業用ため池の防災・減災対策の推進
- 3 農業集落排水施設の更新



【大野県知事】

「県の5か年計画では「儲かる農林業の推進」、「災害・危機に強い埼玉の構築」、「豊かな自然と共生する社会の実現」を指針に位置付けている。今回要望のあった、基幹水利施設や、農業水利施設の計画的な補修・更新が重要であると考えており、しっかりと取り組んでいきたい。また、激甚化する災害に備え、ため池や農業集落排水施設の老朽化に伴う補修・更新も計画的に進めていきたい。皆様の活動の充実が県の発展につながる。」と力強い言葉をいただいた。



(左から) 稲場常務理事、坪井副会長、三ツ林会長、大野県知事、原田副会長

国へ予算や制度拡充を要望 (一都九県土地改良事業団体連合会)

関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会は、去る11月28日、農林水産省や財務省、進藤金日子、宮崎雅夫両参院議員ほか国会議員に農業農村整備事業推進に関する要請書を提出した。

協議会は、栃木県土地改良事業団体連合会（会長：佐藤勉衆議院議員）や、埼玉、茨城、群馬、千葉、神奈川、山梨、長野、静岡、東京都の連合会で構成。本会からは近藤事務局長と太田総務課長が参加した。

要請事項は以下の通り。

- 1 農業農村整備事業予算について、地域からの強い要請に十分対応できるよう、令和7年度当初予算において、さらなる充実を図ること。併せて、令和6年度補正予算を確実に確保すること。
- 2 食料・農業・農村基本法の見直しを踏まえ、土地改良法や関連する制度において、土地改良区等の意見を十分に反映させながら、生産基盤の保全も含めた施策の拡充、推進を行うこと。
- 3 収益性の高い農業による所得向上を実現するため、担い手への農地集積・集約化、大区画化や水田の汎用化・畑地化、スマート農業の導入等につながる基盤整備事業を推進すること。
- 4 被災した農地・農業水利施設の復旧対策や再度災害防止の取組を迅速に講じること。あわせて、農村地域の国土強靱化を図るため、基幹から末端に至る農業水利施設の長寿命化、豪雨・耐震化対策や洪水被害防止対策等を着実に推進するとともに、エネルギー価格高騰下においても安定的な用水供給が可能となる対策を図ること。
- 5 農業・農村が有する多面的機能をしっかりとして次世代に引き継ぐため、今後、農業従事者が急速に減少しても農地や水路、農道の保全活動等が適切に実施できるよう、多面的機能支払制度への十分な支援を図ること。
- 6 土地改良法の改正を踏まえ、土地改良施設の管理の省力化・高度化等を図る取組を推進するとともに、土地改良区の組織運営基盤強化に向けた十分な支援を推進すること。
- 7 上記事項の実施に当たり、水土里ネットが有する技術、経験などを十分発揮できるよう配慮すること。



農水省の笹川博義副大臣に要請書を手渡す佐藤協議会会長（中央）

令和7年度 農林水産予算概算決定の概要

令和7年度予算の政府案が昨年12月27日（金）に閣議決定された。

農林水産予算総額は別表のとおり2兆2,706億円（対前年度比100.1%）を計上。このうち農業農村整備事業関係予算は非公共事業費を含めて4,464億円（対前年度比100.0%）となっている。

令和7年度農林水産関係予算の骨子

総括表

区 分	6年度 予算額	7年度 概算決定額	6年度補正 追加額
	億円	億円	億円
農林水産予算額 (対前年度比)	22,686 -	22,706 100.1%	8,678
1. 公共事業費 (対前年度比)	6,986 -	6,966 99.7%	3,917
一般公共事業費 (対前年度比)	6,784 -	6,786 100.0%	3,201
災害復旧等事業費 (対前年度比)	202 -	180 89.1%	716
2. 非公共事業費 (対前年度比)	15,700 -	15,741 100.3%	4,761

- (注) 1. 金額は関係ベース。
 2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
 3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

公共事業費一覧

区 分	6年度 予算額	7年度 概算決定額	6年度補正 追加額
	億円	億円	億円
農業農村整備 (対前年度比)	3,326	3,331 100.2%	2,037
林野公共 (対前年度比)	1,877	1,880 100.2%	817
治山 (対前年度比)	624	625 100.2%	310
森林整備 (対前年度比)	1,254	1,256 100.2%	506
水産基盤整備 (対前年度比)	730	731 100.2%	320
海岸 (対前年度比)	81	81 100.0%	28
農山漁村地域整備交付金 (対前年度比)	770	762 99.0%	-
一般公共事業費計 (対前年度比)	6,784	6,786 100.0%	3,201
災害復旧等 (対前年度比)	202	180 89.1%	716
公共事業費計 (対前年度比)	6,986	6,966 99.7%	3,917

- (注) 1. 金額は、関係ベース。
 2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
 3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
 4. 農業農村整備事業関係予算は、6,500億円。その内訳は以下のとおり。
 ・農業農村整備事業 3,331億円
 ・農山漁村地域整備交付金のうち農業農村整備分 584億円
 ・非公共の農業農村整備関連事業 548億円
 (農地耕作条件改善事業、畑作等促進整備事業、農業水路等長寿命化・防災減災事業、農山漁村振興交付金)
 ・6年度補正額（農業農村整備事業） 2,037億円

令和6年度 第3回監事会

本会は11月7日（木）に令和6年度第3回監事会を開催した。次の議事について審議し、全て原案通り可決された。

【第3回監事会議事】

議案第1号 令和5年度収支補正予算（案）の承認について

議案第2号 代表監事の互選について

議案第2号の代表監事の互選により、代表監事として金子正夫監事（西吉見南部土地改良区理事長）が選任され、令和6年11月9日より就任となった。



監事会の様子

令和6年度 第2回理事会

本会は11月18日（月）に令和6年度第2回理事会を開催した。次の議事について審議し、全て原案通り可決された。

【第2回理事会議事】

議案第1号 令和6年度収支補正予算（案）の承認について

議案第2号 埼玉県土地改良事業団体連合会人事規程の一部改正について

議案第3号 臨時総会の招集（案）について

議案第4号 臨時総会の提出議案について

報告事項 令和6年度収支状況について（令和6年9月末現在）



理事会の様子

令和6年度 臨時総会

埼玉県土地改良事業団体連合会（三ツ林裕己会長）の令和6年度臨時総会は、去る12月23日（月）熊谷市「熊谷文化創造館さくらめいと」において開催された。

原田信次副会長の開会の辞に始まり、続いて三ツ林裕己会長より挨拶があった。

議事は、議長に江袋溜井土地改良区塚田修理事長が選任され、令和5年度事業報告及び収支決算、令和6年度収支補正予算、役員の補欠選任の3議案を審議し、原案のとおり全会一致で承認可決された。

なお、役員の補欠選任については、

監事 新井 操 氏（埼玉県北川辺領土地改良区理事長）

監事 本澤 秀一 氏（新堀土地改良区理事長）

お二方が選任された。

最後に坪井茂副会長の閉会の辞により終了した。



臨時総会の様子



三ツ林会長挨拶

第68回 通常総会の開催について（予定）

日時 令和7年3月17日（月）午前10時から

場所 鴻巣市文化センター（クリアこうのす）大ホール

お問合せ先 水土里ネットさいたま 総務部総務課 TEL 048-530-7335

令和6年度 土地改良施設の診断・管理指導結果の概要

土地改良区体制強化事業 施設・財務管理強化対策において実施した「令和6年度土地改良施設の診断・管理指導」について、本年度は定期診断・要請診断を合わせ延べ49地区、106施設の診断を行った。



<診断実施期間>

定期診断：令和6年7月～11月

要請診断：令和6年7月～8月を主として、必要な場合は期間外も実施

<診断対象施設>

基幹的な土地改良施設で、農業用施設機能を有するおおむね以下の施設。

種 目	ダ ム	頭首工	用排水機	樋(水)門	ため池	その他	水 路
受益面積	10ha以上						20ha以上

◎定期診断指導

県内の基幹的土地改良施設を対象（下表）に、竣工年度や過去の整備補修年度等から勘案し、当会で選定した施設の診断指導を実施するもの。（10年サイクル計画）

定期診断対象地区及び施設数（H29年度土地改良施設調査より）

区 分	土地改良区・市町村数			土地改良施設数							
	改良区	市町村	計	ダ ム	頭首工	用排水機	樋(水)門	ため池	水 路	その他	計
埼玉県全体	76	30	106	—	24	878	488	—	—	—	1,390
うち令和6年度 診断対象	17	7	24	—	1	54	29	—	—	—	84

※その他：水管理施設、除塵機など

◎要請診断指導

当年度定期診断指導施設以外の施設で、土地改良区等から要請のあった場合に実施するもの。

令和6年度 診断実施施設

(R7.1.9時点)

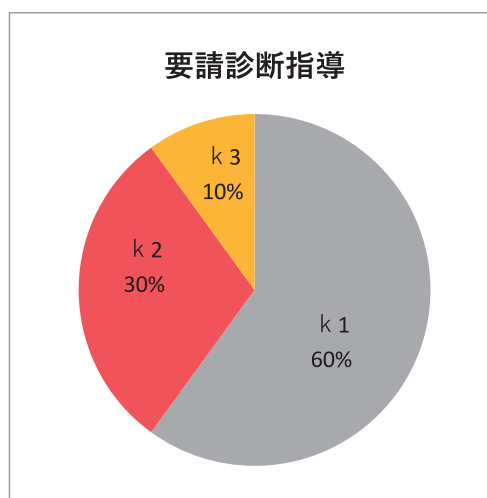
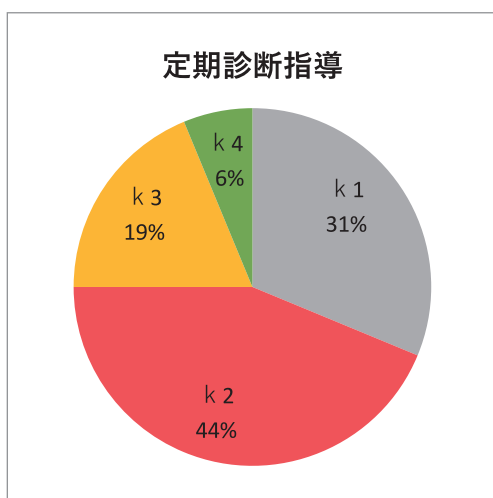
区分	土地改良区・市町村数			土地改良施設数								指導延日数
	改良区	市町村	計	ダム	頭首工	用排水機	樋水門	ため池	水路	その他	計	
定期診断指導	6	4	10	—	1	6	9	—	—	—	16	50
要請診断指導	28	11	39	0	1	58	8	1	13	9	90	
計	34	15	49	0	2	64	17	1	13	9	106	

※重複地区あり

※その他：水管理施設、除塵機

令和6年度 診断結果

総合評価	k1	k2	k3	k4	計
定期診断指導	5	7	3	1	16
要請診断指導	54	27	9	0	90
計	59	34	12	1	106



緊急度重大 (k1)	機能低下が著しく、早急に整備補修を要するもの
緊急度 大 (k2)	機能低下が見られ、整備補修の検討を要するもの
緊急度 中 (k3)	経年的な機能低下傾向にあり、計画的な整備補修の検討を要するもの
緊急度 小 (k4)	運用上支障はないが機能低下の兆候も出てきており、経過の観察を要するもの

本年度診断施設の適正化事業への加入計画予定状況 (R7新規加入に限る)

定期診断 16施設中、0 施設

要請診断 90施設中、35 施設

R7.1.9時点

令和6年度 土地改良相談の概要

土地改良区体制強化事業 施設・財務管理強化対策において実施した「土地改良施設の管理等に関する苦情・紛争等の対策」について、本年度は延べ72件の相談が寄せられ、うち4件については弁護士案件であった。

(R7. 1. 9時点)

相談区分	改良区	市町村	その他	計	備考
①土地改良事業に関する苦情・紛争等について	6	0	0	6	3
②土地改良事業計画の作成・工事の実施について	6	14	0	20	
③事業主体の組織運営について	17	0	0	17	1
④土地改良施設の管理について	6	5	1	12	
⑤農業水利に関する事案について	0	0	0	0	
⑥土地改良法に関する事案について	0	1	0	1	
⑦換地処分その他農用地集団化について	0	4	0	4	
⑧その他	8	3	1	12	
	43	27	2	72	4

※相談依頼者 その他：組合員、施設管理人等

※備考欄数値：計のうち、弁護士への法律相談を行った件数

◎土地改良相談について

当会では、土地改良事業の実施や運営等に精通した職員を相談指導員として配置しています。また、近年の複雑化・高度化する相談等に対応するべく必要に応じて、弁護士への委嘱体制を整えています。お気軽にご相談下さい。但し、今年度の弁護士案件は、予算の都合上受付を終了とさせていただきます。

◆相談方法

文書による依頼を原則としますが、口頭又は電話等でも構いません。適宜、受け付けていますので、下記の相談指導員へお問い合わせ下さい。相談料は原則として無料です。

専門家への相談の必要があると判断された場合または相談者が弁護士への相談を希望する場合、初回の法律相談（スポット相談）費用は事業内で補助が受けられます。但し、弁護士対応の相談案件等において、調査や書類作成等の実作業が発生した場合や2回目以降は自己負担となります。

※法律相談範囲は、その場で即答できるような簡易な相談（判例や法令等の調査を要しないもので、民法、労働法、借地借家法等の一般的な法律問題）

◆相談指導員（窓口）

所 属	氏 名	電話番号（直通）
		☎048-530-
事務局長	近 藤 慶 一	7 3 3 3
総務部長 兼 団体支援課長	加 藤 勝 勝	7 3 5 6
事業部長	齊 藤 靖 靖	7 3 4 5
総務課長	太 田 東 東	7 3 3 5
団体支援課 指導官	松 沼 淳 也	7 3 5 6
地域支援課長	矢 崎 岳 彦	7 3 5 2
集落排水課長	綿 貫 達 也	7 3 4 2
ため池保全課長	根 岸 健 一	7 3 3 8
農村整備課長	根 岸 雅 善	7 3 4 8

「さいたま水土里ネット女性の会」現地研修会

さいたま水土里ネット女性の会は、11月19日（火）、活動計画の一環として現地研修会を実施し、農林振興センター、土地改良区、県土連の女性職員を合わせて、30名が参加した。

栃木県にある南摩ダムへの訪問と見学や、とちぎ水土里ネット女性の会との意見交換会など充実した研修となった。南摩ダムでは、利根川水系農業水利協議会埼玉県支部と合同で、11月8日に試験湛水を始めたばかりのダムを視察。独立行政法人水資源機構思川開発建設所の曾田事業調整役より、思川開発事業の目的や南摩ダム建設の進捗についてのお話を伺った。その後、栃木県土地改良事業団体連合会にて、とちぎ水土里ネット女性の会との意見交換会を行った。小グループに分かれ、「職場での困りごと」をテーマに活発に意見が交わされた。

今回の研修では、初の試みとなる他県の女性の会との意見交換会を行ったが、「普段お話する機会がない土地改良区さんとお話できてよかった」「皆さんが同じような悩みをかかえていることが共有でき、少し安心した」などの感想をいただき、県内女性の会の会員だけでなく、他県の土地改良区の女性職員ともコミュニケーションを図ることができ、各々の見聞を広めることができた。今後は会員の皆様とのネットワークを一層広げ、活躍を促進するための研修会を計画していきたい。

意見交換会で上がった主な意見（一部抜粋）

テーマ：職場での困りごと

- ・仕事に対するモチベーションの保ち方について
- ・人手不足について
- ・情報共有・コミュニケーションの不足について
- ・土地改良区組合員の賦課金への理解について



現地視察の様子



とちぎ水土里ネット女性の会と記念撮影



意見交換会の様子

2024ため池フォーラムinあきた

令和6年11月7日～8日の2日間、秋田市にある「あきた芸術劇場ミルハス」において、本フォーラムが開かれた。

ため池は、農業用水の供給のほか、雨水の貯留による洪水抑制や美しい農村景観の形成、生態系保全といった多面的機能を有し、地域にとってかけがえのない存在となっている。

本フォーラムは、各都道府県や土地改良区の職員等を対象に、農業用ため池の防災・減災対策やため池の利活用の取組などの紹介があり、それらの情報を共有することで、各県において今後のため池に関する取組をより一層推進することとともに、ため池についての古来からの知恵と現代技術の両面からため池の未来を考え、その恩恵を後世に引き継ぐことを目的として、「ため池の恩恵を後世へ～先人の叡智と新たな技術の融合～」をテーマに開催された。

7日は、ため池に関する基調講演や防災・減災対策に関する報告等があった。

8日は、現地見学会が「一ノ目潟ため池と男鹿・八郎潟干拓コース」、「一丈木ため池と角館武家屋敷コース」として実施された。



11月7日(木)

オープニングセレモニー	
開会挨拶	秋田県副知事 神部 秀行
来賓挨拶	農林水産省農村振興局整備部防災課 課長 石井 克欣 全国土地改良事業団体連合会 会長 二階 俊博 (代理：主任研究員 二神 健次郎) 全国水土里ネット会長会議顧問 進藤 金日子
情報提供	「ため池工事特措法の制定」 全国ため池等整備事業推進協議会 副会長 宮崎 雅夫
特別講演	「地域に根ざした農業教育と高校野球を通じた人材育成～可美しい郷から未来へ～」 秋田県立金足農業高等学校 野球部監督 中泉 一豊
基調講演	「気候変動下のため池の管理と役割」 秋田県立大学生物資源科学部 教授 増本 隆夫
情勢報告	「農業用ため池の防災・減災対策について」 農林水産省農村振興局整備部防災課 課長補佐 中司 昇吾
事例発表①	「ため池の利活用と発電の取組」 由利本荘市土地改良区 理事長 三浦 昭夫
事例発表②	「一丈木ため池 ～87年の歳月、水田を潤して～」 秋田県仙北平野土地改良区 事務局長 坂本由美子
事例発表③	「秋田県ため池保全サポートセンターの取組」 秋田県土地改良事業団体連合会 専門員 佐々木定勝
事例発表④	「秋田のため池とその整備」 秋田県農林部 参事(兼)農地整備課長 足立 徹
次回開催県挨拶	広島県農林水産局 農林基盤整備担当部長 楨原 敏幸
閉会	

「2024 彩の国 食と農林業ドリームフェスタ」開催結果

埼玉県農林部農村整備課

令和6年11月16日（土）及び17日（日）に熊谷スポーツ文化公園（熊谷市）にて、「2024 彩の国 食と農林業ドリームフェスタ」が開催されました。

今回は熊谷市産業祭等のイベントとのコラボ開催ということもあり、2日間で約7万人が来場されました。（R5年度：約1万8千人）

当日は県産農産物の販売や、農林水産業を紹介するブース等が多数出展され、大いに賑わいました。

県農村整備課と水土里ネットさいたまでは「県内の農業水利施設の紹介」をテーマとして、県農村整備課、各地域機関、水土里ネットさいたま及び(独)水資源機構で作成したパネルを展示しました。

パネルをご覧いただいた方々に農業水利施設の役割に対する認知度等についてのアンケートをお願いし、ご協力いただいた方々には啓発グッズをプレゼントしました。

【会場の様子】



【アンケート結果】

2日間で、539名の方に回答していただきました。

「展示はわかりやすかったですか」の問いに対し、「わかりやすかった」が88%と、大多数の方に御好評をいただきました。

アンケートのご協力ありがとうございました。

◆寄せられたご意見、ご感想の一部◆

- ・ 展示に一体感があってよかったです。
- ・ 知らない事ばかりでおもしろかったです！
- ・ 近くにこういった施設があるのを知らなかったのので、写真や地図でわかりやすく学びました。
- ・ 身近な水の確保や洪水対策の為に様々な施設が活躍している事が分かった良い機会となった。

など



大里農林振興センター作成パネル

第12回「彩の国 農業・農村景観フォトコンテスト」

テーマ ～埼玉を彩る農業・農村の水土里^{みどり}～

本会では、さいたま・川越・東松山・秩父・本庄・大里・加須・春日部の各土地改良推進協議会との共催で、第12回「彩の国 農業・農村景観フォトコンテスト」を開催した。

埼玉県内の豊かな自然環境や美しい農村環境、農業の魅力を広く一般の方々に紹介し、関心を高めていただくために、「埼玉を彩る農業・農村の水土里(みどり)」をテーマに募集したところ、330点の作品が集まった。

写真家の吉田功氏をはじめとした18名の審査員による審査が行われ、水土里ネットさいたま会長賞1点、各土地改良推進協議会会長賞8点、入選10点、学生優秀賞、審査委員長特別賞が決定した。



吉田審査員長



審査の様子



会長賞の皆様



入選・特別賞の皆様

表彰式は令和6年12月10日(火)本会大会議室において開催され、受賞者の方々には表彰状と記念品が授与された。

また、令和7年1月11日(土)から13日(月)の3日間、さいたま市のレイボックスホール(さいたま市民会館おおみや)にて写真展を開催し、多くの方にご来場いただいた。



写真展の様子

＜テーマ＞
埼玉を彩る農業・農村の水土里

第12回
彩の国 農業・農村景観
フォトコンテスト

写真展

2025.1.11(土)ー 1.13(月・祝)

◆ 9:00～17:00 [入場は16:45まで]

会場：レイボックスホール(さいたま市民会館おおみや)
 展示室 1(大宮門街 EAST4階)
 〒330-0866 さいたま市大宮区大宮門街2-1-11
 2階・ニューシャトル緑が大宮駅東口徒歩3分

【主催】埼玉県土地改良事業団体連合会(水土里ネットさいたま)
 【共催】さいたま土地改良推進協議会 川越土地改良推進協議会
 東松山土地改良推進協議会 秩父土地改良推進協議会
 本庄土地改良推進協議会 大里土地改良推進協議会
 加須土地改良推進協議会 春日部土地改良推進協議会
 【後援】埼玉県

水土里ネットさいたま <埼玉県土地改良事業団体連合会> TEL 048-530-7352
フォトコンP

受賞作品



水土里ネットさいたま会長賞
「田水張る」菊池 隆夫
(撮影場所：久喜市菖蒲町)

講評：スケールの大きな作品になりました。
広角レンズを上手に使用して広がりや奥行を出すなどかなりの実力です。
空の部分を少なくしたことで、水面に写る青空が強調されました。
手前の緑の草とのバランスも良かったですね。
それぞれの田んぼに引く水路を左に寄せたのも構成上、成功しています。



さいたま土地改良推進協議会会長賞

「都市農業」堀越 力男 (撮影場所：さいたま市)

講評：農作業が機械化されていくことで、女性も参加しやすくなることは良かったですね。しかも若い人の様ですから各地に後継を期待できる流れになるといいですね。後方に副都心の特徴あるビルを配したことで、題名通りの都市型農業の未来を想像させてくれます。上部の青い空が強めなのが気になりました。



川越土地改良推進協議会会長賞

「龍神祭り」栗島 進 (撮影場所：鶴ヶ島市)

講評：この撮影は、位置取りが大変。四年に一度ということでカメラマンの数が尋常ではない。よくそのポジションを確保しました。手前に担ぎ手を大きく入れて、龍神の尻尾の方までを撮ることで、祭りの力強さや盛大さが伝わりました。ハイアングルからの撮影が成功しましたね。



東松山土地改良推進協議会会長賞

「一本の小道」半田 充右（撮影場所：東秩父村）

講評：すっかり有名になった東秩父の高原牧場です。手前のポピーにビントを合わせているから、中央左周辺の花がボケているのは理解できます。右側の花のボケに対して奥の緑の斜面はそれらに比べてビントがいいのが矛盾します。加工されてないことを祈ります。画面の構成は良かったですね。



秩父土地改良推進協議会会長賞

「まだまだ現役」田中 薔華（撮影場所：横瀬町）

講評：全体的にまとまりの良い作品になりました。稲かけの棒らしいものを持つ農夫の顔、肩、腕にかけての光線の当たり方。右下の彼岸花の存在。後方の収穫を迎えた稲。どれも無駄のない作品です。農夫の頭上の空と右側の空の色が違い過ぎるのが気に入りました。



本庄土地改良推進協議会会長賞

「取入の日」武内 道直（撮影場所：美里町）

講評：ベテランらしい作品ですね。広角レンズで白菜畑の広がりを見せています。大胆に左手前の人物を大きくしたことで人の重なりをなくし、配置もバランスが取れました。白菜の量だけでなく作品に強さも出ましたね。欠点の少ない作品になりました。



大里土地改良推進協議会会長賞

「田植体験勢揃い」竹林 雅春（撮影場所：熊谷市）

講評：子どもたちの田植体験学習は良く見かけます。子どもの数より関係者の多いのにびっくり。作者が行司になって見合って、というところでしょうか。低いアングルで広角レンズを使用し、遠近感を強調した結果、にぎやかさが生まれ、鉄塔のあることで地域性も表現出来ました。



加須土地改良推進協議会会長賞

「梅雨の晴れ間」吉野 宏映（撮影場所：加須市）

講評：子供の頃によく見かけた光景ですね。今でもこうした懐かしい場面に会えるとは嬉しいですね。後方の空の部分を少なくして水田のスペースを広くしたのは良かったのですが、アジサイの下部も切り詰めるとさらに広がりを感じることが出来たと思います。



春日部土地改良推進協議会会長賞

「実りの秋」楠本 三郎（撮影場所：白岡市）

講評：秋空のもと収穫作業に勤む農夫。一面に豊作と思える稲穂を前に心が弾むでしょうね。稲を刈り込んでいく様子を遠方からサギが見ています。漁夫の利を狙っているのでしょうか。のどかな田園風景です。青い空や白い雲など機能的にもうまくまとまりました。



審査委員長特別賞

「春耕」後藤 正明
(撮影場所：鶴ヶ島市)

講評：掘り起こした黒い土の幾何学模様に写欲が湧いたのでしょう。この作品から土の匂いを感じます。この黒い溝に肥料や種をまくのでしょうか。土地改良事業を推進する主催者のイメージにぴったりの作品になりました。



学生優秀賞

「古代とつながる場所」関口 葵
(撮影場所：行田市)

講評：作者はこの風景に時の流れと今なお生き続けている植物や昆虫に心を動かされました。眼前の美しさに感動するだけでなく、そこにある歴史の重み、樹木やアゲハ蝶の命など、心の目で感じたことを素直に撮っています。

入選



「寒風さらし」
真下 廣義 (撮影場所：深谷市)



「収穫」
張替 政雄 (撮影場所：さいたま市)



「狭山茶の古里」
水上 貴夫 (撮影場所：入間市)



「収穫」
桜井 勲 (撮影場所：富士見市)



「太陽と田んぼ」
小島伊津樹 (撮影場所：東松山市)



「実りの秋を飾る彼岸花」
丹羽由美子 (撮影場所：横瀬町)



「トノサマバツつかまえた」
飯島加那子 (撮影場所：神川町)



「あさもやの水門」
今井 秀和 (撮影場所：熊谷市)



「モロヘイヤ摘めたよ～」
柴崎 治 (撮影場所：行田市)



「孫と畑仕事」
堀之内 稔 (撮影場所：蓮田市)

農業基盤整備資金の金利改定について

令和7年1月21日付けの株式会社日本政策金融公庫及び沖縄振興開発金融公庫の農業基盤整備資金の金利改定について、下記のとおりお知らせします。

区 分	改 定 前					改 定 後				
	融資期間にかかわらず	融資期間別（一例）				融資期間にかかわらず	融資期間別（一例）			
		5年	10年	15年	20年		5年	10年	15年	20年
都道府県営補助残	1.55	—	—	—	—	1.55	—	—	—	—
団体営補助残	1.40	—	—	—	—	1.40	—	—	—	—
非補助一般	1.40	—	—	—	—	1.40	—	—	—	—
非補助利子軽減	1.40	—	—	—	—	1.40	—	—	—	—
災害復旧	—	0.85	1.05	1.35	1.40	—	0.85	1.05	1.35	1.40

お問合せ先 水土里ネットさいたま 事業部農村整備課担当 根岸 TEL 048-530-7348

連合会日誌

開催日	会議・行事	開催地	
11月	5日	農業農村整備の集い	東京都
	7日	本会第3回監事会	熊谷市
	7～8日	ため池フォーラムinあきた	秋田県
	12日	埼玉県農業集落排水事業連絡協議会先進地視察研修会	川島町
	16～17日	2024彩の国食と農林業ドリームフェスタ	熊谷市
	18日	本会第2回理事会	熊谷市
	19日	さいたま水土里ネット女性の会現地研修会	栃木県
	19日	利根川水系農業水利協議会埼玉県支部現地研修会	栃木県
	28日	埼玉県知事への要望活動	さいたま市
	28日	関東一都九県土地改良事業団体連合会要請活動	東京都
	28日	農業農村整備事業に関する意見交換会	さいたま市
12月	13日	農業農村工学会関東支部大会	さいたま市
	23日	本会令和6年度臨時総会	熊谷市

